

令和元年度 第1回市民協働推進委員会 議事録

- 1 日時 令和元年6月19日(水) 午後6時00分から午後7時30分
- 2 場所 豊川市役所 本34会議室
- 3 出席者 会長 神谷 典江・・・(特非)穂の国まちづくりネットワーク
委員 荒木 夏希・・・(特非)どんぐりの会
委員 河邊 浩徳・・・(特非)みんなで豊川市をもりあげ隊
委員 乙部 法行・・・豊川市連区長会代表
委員 小栗 慎平・・・豊川高校インターアクトクラブ顧問
委員 稲垣 誠・・・ひまわり農業協同組合
委員 竹尾祐三子・・・豊川市社会福祉協議会地域福祉課長補佐
副会長 鈴木 敏彰・・・豊川市市民部長
- 4 事務局 市民部次長、市民協働国際課長、課長補佐、市民協働係長
- 5 傍聴者 0名
- 6 議事概要

(1) 「とよかわ市民協働推進計画」における平成30年度実施施策の評価 【事務局】

とよかわ市民協働推進計画では、「地域と行政がしっかりとささえているまち」の目標を実現するため、4つの基本方針を定め、9つの実施施策、45事業(再掲4事業を含む)を展開しており、計画全体の指標1つと実施施策ごとの指標14の併せて15の目標指標を定めている。なお、とよかわ市民協働推進計画がスタートして、初めての評価となる。評価の方法は、実施施策ごとに目標達成度や効果などを客観的に評価して、9つの実施施策ごとに5段階で評価点をつけて欲しい。

【会長】

評価の仕方が簡潔になって評価しやすくなったと思う。委員会の総意で変えていったので、項目についての評価をみんなで協力して進めていきたい。

【会長】

フリーペーパー(メセナ)にも市民活動の情報が多く載っている。これは評価にはならないのか。

【事務局】

行政側が施策として出した事業を載せている。各市民活動団体が個別に出しているものの全てをこちらでカウントができない。

【会長】

市（行政）と協働して開催していたものをフリーペーパーに載せているものがある。これらが成果として挙げられないか。今後その検討はできないか。

【事務局】

どうやって回数等を確認していくのか一度検討させていただきたい。

【会長】

もう少し数が増えるのではないかと思い意見させていただいた。

【委員】

秘書課のはなまる3件と、市民協働国際課のはなまる4件はどう違うのか。

【事務局】

秘書課として毎月専用の掲載枠を持っており、そこに情報提供した記事と、市民協働国際課としてフリーの掲載枠へ情報提供した記事として異なる。

【会長】

センタープリオが紙媒体の情報提供を充実させているということは載ってこないのか。例えば市民の方に愛知県総局まで行かなくても情報が得られるような県の情報をセンタープリオに置くようにしている。「活動に活かされて助かった」といった声もよく聞くのでどうか。

【事務局】

施策自体が協働の中の45事業ごとの報告になる。センターだよりの実績とは異なる。

【会長】

紙媒体として県の情報を置くようにしたことは、新しい取り組みになると思うのだが、施策に含めるのは難しいかもしれない。良いことではあるので委員の方には知っておいて欲しい。

【委員】

定年退職者向けボランティア啓発冊子の作成が未実施になっているがこれはいつごろを予定しているのか。

【事務局】

「とよかわ市民協働推進計画」の48ページにあるように、定年退職者向けボランティア啓発冊子の作成は2024年に作成の予定となっている。

【委員】

主催者として市のホームページに子ども食堂の予定が載っていてありがたい。様々なところから興味・関心を持ってきて、先日も子ども食堂が開催されたが、多くの人が集まり、ご飯が足りないほどだった。インターネットを通して情報発信したことで、自分たちの地区以外からも来ていただいた。

【会長】

市民協働国際課やセンタープリオが多くの情報を持っていることで、様々な情報発信をすることができるので、情報の収集については力を入れていかなければならない。

【委員】

コミュニティーリーダー養成講座を開催し、その後地元などに展開されるような仕組みがあるのか。

【事務局】

この講座においてポジティブチケット事業を紹介したところ、地域の民間事業者と協働しようとした際、町内で協力事業所がないという悩みを抱えた町内会があった。そこで市は、新規事業として諏訪一部町内会が行ったポジティブチケット事業をヒントに、地域全体で町内会活動を応援してもらえる事業所を募集し、登録していただき、町内会がその事業所に応援事業所カードを提示することで町内会活動に対しサービスを特別に提供していただく仕組みを整備した。そうした地域を巻き込んで協働事業を進めてもらうことを講座受講者にお知らせした。

【会長】

介護・生活支援サポーター養成講座の受講者が9名、防災ボランティアコーディネーターフォローアップ研修の受講者が2日に渡って11名となっている。協働への姿勢として担当課が受講者数が増えるようにもう少し力を入れてほしい。

【委員】

自主防災会の中のリーダーを育てるためにもより多くの人に参加する仕組みを作っていないと、参加したところと参加していないところの差が出てしまうのではないかと。内容のある講座であったため、参加者が少ないのは残念に思ってしまう。

【会長】

55名も推進員が出ているので今後に期待したい。また、市民協働ガイドも若者の目にも止まるようなデザインである。努力した成果がみえる。

土曜日にセンタープリオが開設するようになって1年が経つ。月曜日が開設していないことで迷惑がかかっている団体もあるが、土曜も開設していることが周知され、多くの方が来ていただけるようになればと思っている。

町内会加入促進事業補助金のガイドブック配布事業は良い取り組みだと思う。今後も展開してもらいたい。

地域空き家等対策モデル事業費補助の3団体、補助額90,000円について知りたい。

【事務局】

詳しい内容について担当課に確認させていただき、後日回答させていただく。

【会長】

各課が努力していることが委員になることでわかってきて、行政がどのように協働していこうとしているか明確になってくると思う。

【委員】

老人クラブにおいて、高齢者が増加傾向にある今、会員が少なくなってきたのはなぜか。

【会長】

地域で差があるように思う。自分達の地域では市民館を新しくする際、何度も説明や話し合いを行ってくれており、行政側からも町内を盛り上げるための努力はしていると思う。だが、老人クラブに入らない方は多い。例えば、社会協議福祉会の地域福祉懇談会の参加者は伸びているのか。

【委員】

参加者は把握していない。老人クラブにおいては、地域差があるのではない

か。役員になりたくない方などがおり、なかなか新しい方が入らないのかもしれない。

【委員】

町内会でポジティブチケット事業を取り入れたことによって、老人クラブの方も積極的に子どもとの交流を図ってくれるようになった。

【会長】

諏訪町内会のように他の町内会へ出向いていただき活動紹介など交流を行ってもらえるのはどうか。そうすることで、自分達の地域も頑張らなければと思うようになるかもしれない。

【事務局】

高齢の方でも、まだまだ現役で働いている方も多くおられ、そのため地域との繋がりも少ない場合がある。

【会長】

アダプトプログラムの成果は感じている。センタープリオでもボランティアはやりたいが何をやっていいのかわからない場合には個人でもできるアダプトを何人か紹介している。ここから団体に入りたいという人が増えていくと財政的支援をやって良かったと思える。

穂の国まちづくりネットワーク提案の新潟県糸魚川市大規模災害の講演会は皆様の協力で300人満席になった。行政と協働することで自分たちの得意分野を持ち寄りやり遂げられて良かった。他の団体においても行政への提案を行ってもらえるといい。

市民協働推進委員会の設置について、開催日の4日は先ほどの協働の手引きによるものか。

【事務局】

昨年度この委員会の開催が年4回であったため、この4日の開催日を記してある。

【会長】

豊川市環境審議会において「今後、継続して各団体から環境審議会委員を推薦してもらえるか、また、委員をどの団体の代表者などに委嘱するかなどを検討する必要がある。」とあるが、どういうことか。

【事務局】

環境課で各種団体を代表する者 11 名とあるが、各種団体はどの団体にするのか決まっているわけではない。環境課の中でどの団体にするのかを決めている。その中で、普段お仕事をされている方もみえるので審議会の委員を推進していただけないという課題も抱えている。環境分野は広いのでできれば様々な分野から委嘱してもらいたい。

【会長】

最近では、団体が自分たち独自で考えて活動していかなければならないといった流れの中で、団体が独立して運営していくようになってきている。「仕事を行っていて忙しくて出られない」といった事態も出てきている。

(2) その他

【事務局】

次回の委員会は、8月6日火曜日の午後6時から、ここ本34会議室で開催する。なお、市民協働推進事業補助金の追加募集を7月末まで行っている。補助申請があれば、この第2回の委員会において団体がプレゼンを行い、委員の皆さまには審査していただく。